

# まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.35

## 1学期 始業式

～「私はできる」と自分の心に火をつけて、変化ある1年に～

2026.4.8 校長

皆さんこんにちは。いよいよ新年度、令和8年度が始まりました。ここにいる2年生、3年生は経験しているので、これから始まる高校の1年間はイメージできますね。

3学期の終業式で私が話したことを覚えていますか。

人間は哺乳類の中でも脳の割合が大きく、随分先のことまで予想できる。

だから「こうなっていたい自分」を思い浮かべ、逆算して今やるべきことを考えよう。

新年度にそこに向かって突き進むために、春休みは「助走」「タメ」の期間だ、と話しました。動き出す準備はできていますか。

今年も皆さんに求めることは、「挑戦」です。高校時代は、たくさんの知識と経験を蓄積する時期です。この蓄積の多さが、将来の柔軟で多様な思考や、正しい判断・行動のもとになります。

「挑戦」のすべてが成功するわけではありません。失敗はいけないことでしょうか。失敗したら、次は別の方法をとればよいのです。これが経験の蓄積です。

自由の効く高校生の期間は、あと1年、2年もありません。自分にできるのか、できないのか、やってみなければわかりません。立ち止まっていなくて、「こうなっていたい自分」に近づく動きをしましょう。

ここで、アメリカの作家ナポレオン・ヒルの「信念の力」という詩を紹介します。

もしあなたが、負けると思ったらあなたは負ける。

負けてなるものかと思えば負けない。

もしあなたが、勝ちたいと思う心の片隅でムリだと考えるなら、絶対にあなたは勝てない。

もしあなたが、失敗するんじゃないか、と思ったら、あなたは失敗する。世の中を見渡してほしい。

最後まであきらめず、成功を願い続けた人だけが、成功しているではないか。

すべては「人の心」が決めるのだ。

もしあなたが、勝てると考えるのなら、あなたは勝つ。

「向上したい」「自信を持ちたい」と、もしあなたが願うなら、あなたはその通りの人になる。

さあ、再出発だ。

強い人が勝つとは限らない。

すばしこい人が勝つとも限らない。

「私はできる」そう考えている人が結局は勝つのだ。

さあ、皆さん「私はできる」と自分の心に火をつけて、変化ある 1 年としま  
しょう。